著者とひととき

真夜中のカーボーイ

山田 五郎さん

やまだ・ごろう　1958年東京都生まれ。雑誌「Hot-Dog PRESS」編集長などを経てフリーに。著書に「へんな西洋絵画」「知識ゼロからの近代絵画入門」など。

西洋美術の紹介者、テレビやラジオ番組のコメンテーター、時計などを収集する趣味人―。そんな多彩な顔を持つ才人が、初の小説を発表した。「僕も死をリアルに感じる年になってきた。今思うと、書きたくなった背景には、死は遠ざけるべきものだとする現代の風潮に対する違和感があった気がします」

主人公は出版社勤務の「俺」。ある日、約40年前に別れた恋人「デコ」から会いたいという連絡を受ける。かつて2人乗りのバイクで旅に出た末、幼い失敗によって仲を裂かれた2人。それ以来の対面に戸惑う「俺」に、彼女は自身が末期がんであることを告げる。

執筆に着手したのは昨夏。夢中で書き上げたら、今の倍近いボリュームに。「削ったり、直したりするうちに訳が分からなくなっちゃって」。プロの手を借りようと出版社に持ち込んだ。

舞台の大阪は、小学生の頃に東京から移り住み、高校までを過ごした土地だ。少し背伸びをしながら歴史ある建築物などを見て回る青春期の2人を通して「たこ焼きやお笑いといった庶民的なイメージとは異なる、外から来た自分だから見える大阪のいい部分」も描こうとした。当時の音楽や文化もふんだんに盛り込まれている。

2人は思い出を再現するかのような旅に出る。そして道中、人間観や死生観を語り合う。「人は自分の死を体験しない。あるのは最後の瞬間まで続く生だけ。死をしっかり見つめるからこそ、人はそのことに気付く。逆に死ときちんと向き合わないと、生がぼやけてしまうと思うんです」

団塊世代より後に生まれた、いわゆる「しらけ世代」。「はなから斜に構えたところがあって、何かを100パーセント信用し、夢中になることができないところがある」。そのためか、若き日々の回想場面はノスタルジーを感じさせつつも、美化した印象は与えない。

「若い頃は怖いものがなかった、なんてうそです。若い頃の方が怖いものだらけでした。人生の残りが少なくなっていく中で、かえって怖いものがなくなりましたね」

（「真夜中のカーボーイ」は幻冬舎・1430円）

小説で見つめた生と死

灯台からの響き

みやもと・てる　1947年神戸市生まれ。「螢川」で芥川賞、「優駿」で吉川英治文学賞。他の著書に「流転の海」シリーズなど。

宮本 輝 著

亡き妻探す 再生の旅路

評・吉田 伸子（書評家）

主人公・牧野康平は、父から受け継いだ東京都板橋区の中華そば屋「まきの」の暖簾を、妻の蘭子とともに30年以上守ってきた。だが、2年前、蘭子が亡くなって以来、康平は店を閉めている。2人で切り盛りしてきた店を、ひとりで続けていくことはできない、と思ったのだ。

最愛の妻を失い、店も閉めたことで、康平の日々は単調になっていく。康平自身も「六十二歳のひきこもりのおっさんになってしまうと、若くないだけに立ち直るのは難しいという恐れも感じるようになっていた」。

そんなある日、あまりの分厚さと難解さに、何度も読むのを後回しにしていた本を手に取った康平は、その本に挟まれていた1枚の葉書を見つける。

それは、見知らぬ名前の男子大学生から、蘭子に宛てられたものだった。ここから、康平の〝自分が知らなかった妻探し〟の旅が始まる。

康平の旅に寄り添うのが、日本全国にある灯台だ。

男子大学生の葉書に、どこかの岬らしいジグザグの線と「灯台巡りをしました」と書かれていたことがきっかけだったのだが、康平自身、灯台の持つ佇まいと、そもそもの灯台の存在意義に引かれていく。

物語は、この康平の旅と並行して、康平の周辺にいる人物たちのドラマも描いていく。とりわけ、康平を読書に向かわせるきっかけを作った古くからの友人カンちゃんが心筋梗塞で急逝した後、ある女性との間の忘れ形見がいることが発覚するのだが、その青年・多岐川新之助と康平との交流がいい。

康平のもう一人の親友で、「まきの」と同じ商店街で総菜屋を営むトシオこと山下登志夫と康平の気のおけない関係もほほ笑ましい。

妻を探す旅が、康平自身の再生の旅路に重なる。一人の人間の営みには、あまたの人がかかわっていること。そのあまたのひとりひとりにドラマがあることが、読後胸に残る。

しみじみと滋味深い一冊である。

（集英社・2090円）

乳房のくにで

ふかざわ・うしお　1966年東京都生まれ。作家。2012年「金江のおばさん」で「女による女のためのR―18文学賞」大賞受賞。

深沢 潮 著

心に刺さる意志の強さ

評・盛田 隆二（作　家）

在日コリアンとしての出自をめぐる葛藤と再生を「ひとかどの父へ」や「緑と赤」でみずみずしい文学作品に昇華させた深沢潮の新刊は、家父長制の日本社会でたくましく生き抜く2人の女性の物語。

未婚で出産した福美は幼い娘を抱えて困窮するが、母乳があふれるほど出るため、政治家一家に乳母として雇われる。

一方、広告代理店に勤務する奈江は、その政治家の息子と結婚し、3年に及ぶ不妊治療を経て出産するが、母乳が出ないことで義母に責められる。

奈江の息子に自分の母乳を与えて優越感に浸るが、嫁を追い出したい義母のたくらみを知り、罪悪感にも駆られる。

そんな福美（わたし）と奈江（私）の一人称の視点が章ごとに入れ替わることで、母乳によって母となり得た女性と、母乳によって子を手放した女性の相克がサスペンスフルに活写される。しかも冒頭は2000年10月。前世紀から始まった物語は20年間疾走し続ける。その筆致はまさに深沢潮の新境地だろう。

30歳までに結婚しないと税金が上乗せされる独身課税法と、40歳までに子供を産まないい夫婦は年金額が減らされる出産促進法が施行された日本において、2人はともに女性の役割を押しつけられた犠牲者だ。それぞれが生きづらさを懸命に乗り越えていくが、その先に個人ではどうにもならない社会構造がある。

この構造に立ち向かうには2人は連帯しなければならないが、さて物語はどんな展開を迎えるのか。息をつめるようにして読み進めると、思いがけない景色が広がった。

「わたしたち女性は、国家の乳母ではないんです」。奈江の言葉はいささか生硬で人々の反発を招くが、心にまっすぐ突き刺さる強さがある。それはスキージャンプのように姿勢を低くして物語の飛距離を伸ばし、この着地点にたどり着いた作者の意志の強さでもある。女性を優しく勇気づけ、男性を奮い立たせる物語だ。

（双葉社・1760円）

新刊抄

八月の銀の雪

伊与原 新 著

新田次郎文学賞を受賞した著者による短編集。さまざまな事情を抱えて生きる人々と、壮大な科学的真実が響き合い、独特の詩情を生む。

表題作の主人公は、就職活動に失敗し続けている男子大学生。見下していたベトナム人のコンビニ店員とひょんなことから交流を持ち、真の姿を知る。「十万年の西風」では、福島を目指していた原発の下請け会社の元社員が、茨城の海岸でたこ揚げをしていた男と出会う。いずれの物語でも人間の尺度を超えた世界が示され、再び一歩を踏み出す力となる。

（新潮社・1760円）

棚からつぶ貝

イモトアヤコ 著

人気テレビ番組「世界の果てまでイッテQ！」で「珍獣ハンター」として活躍し、110カ国以上を訪れたほか、キリマンジャロなどへの登山にも挑戦してきた著者が、番組ロケの裏話や、自身の交友関係などをつづった初のエッセー集。

ミャンマーの貧しい村で出会った少年が、ありったけのお菓子をプレゼントしてくれた思い出や、結婚相手となる番組スタッフとの出会いとロケを通じて信頼を深めていったエピソード…。何事にも全力で取り組む著者の姿勢が伝わる一冊。

（文芸春秋・1430円）

鹿渡り

白石ちえこ 著

どこまでも続く雪原を、あるいは光が差し込む木立の中を、エゾシカたちが駆けていく。静かで透明感をたたえたモノクロのシルエットは、1枚の絵のようだ。

気鋭の写真家による、5年ぶりの新作写真集の舞台は北海道。光を反射する海、薄曇りの空、コハクチョウの群れ。静まりかえった北の地で「空と森とシカが一列に連なる」様子を目にした著者は、「神聖なものを見てしまったようなおごそかな気持ち」を抱いた。

自然に包まれるようで、冬の訪れを心待ちにしたくなる一冊。

（蒼穹舎・4400円）

「鹿渡り」より

Business&Culture

横尾忠則　創作の秘宝日記

横尾　忠則　著

美術家の横尾忠則が2016年5月から20年6月までの4年間、週刊紙上で公開した自身の日記を書籍化。創作の源泉と位置付ける「夢」の話から飼い猫への愛、作家らとの交流まで、飾らない言葉で語り尽くす。

日々の書き出しの多くが、「前の日に見た夢」で始まる。しかし、次第に夢と現実の境目はあいまいに。作家の三島由紀夫と谷崎潤一郎、映画監督の黒澤明から三者三様の創作アドバイスを送られたり、依頼されたアート作品の彩色を考えるも「面白くなりそーにない」と思ったり。どこまでが現実に起きたことでどこからがフィクションなのか、読者はもとより書いている本人さえも判然としなくなっていく。

84歳の今も「WITH CORONA」と題したマスクアートの発信を続ける。内なる虚構と向き合い、多彩な作品を生み出すアーティストの旺盛な創作意欲が行間から伝わる。

（文芸春秋・2970円）

Art&Comic

県からのお知らせ

各記事の詳しい内容は県にお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。　宮城県 県からのお知らせ 検索　広報課ホームページ

被災者生活再建支援制度～令和3年4月10日で申請期間が終了します～

震災により住宅が全壊するなど、生活基盤に著しい被害を受け基礎支援金を受給した世帯に、住宅の再建方法に応じて加算支援金を支給しています。

●対象／被災当時、仙台市、石巻市、塩竈市、気仙沼市、多賀城市、東松島市、七ヶ浜町、女川町、南三陸町にお住まいで、既に基礎支援金を受給している方（「建設・購入」、「補修」区分で加算支援金を受給済みの方は申請できません。）
●支給額／建設・購入200万円、補修100万円、賃借（公営住宅は除く）50万円
※世帯の人数が1人の場合、支給額が4分の3となります。
●申請期限／令和3年4月10日（基礎支援金および対象地域以外の加算支援金の受付は終了しています。）
●申請窓口／基礎支援金を申請した市町の被災者支援担当課など
各市町被災者支援担当課
消防課 ☎022(211)2372

12月は年末の交通事故防止運動月間です

年末は、交通量の増加や、心理的な慌ただしさ、飲酒機会の増加、積雪・凍結等による路面状況の悪化等の様々な要因が重なり、交通量が増加します。

心に余裕と適度な緊張感を持ち、安全な速度で、交通ルールを守り、年末の事故を防ぎましょう。

一瞬にして人命を奪う飲酒運転は、危険性のある凶悪な犯罪です。

飲酒運転は絶対にしない・させないようお願いします。
総合交通対策課 ☎022(211)2438

北上川流域水循環計画・名取川流域水循環計画に関する意見募集

健全な水循環の保全に関する施策の効果的な推進を図るために定めている計画（第2期）の中間案について、県民の皆さんからご意見を募集します。

●期間／12月10日（木）～1月12日（火）
●資料公表場所／ホームページ、県政情報センター、各地方振興事務所（地域事務所）（仙台を除く）県政情報コーナー
環境対策課 ☎022(211)2667

NPO等を対象とした専門家相談支援事業

新型コロナウイルス感染症の影響を受けている県内のNPO等が、専門家へ活動継続のための各種助成金等申請相談、運営相談、税務相談、法律相談などを行う場合、相談に係る費用の一部を助成します。

●補助対象者／NPO法人、公益社団・財団法人、一般社団・財団法人（非営利型法人に該当する法人に限る）
※要件は、募集要項をご確認ください。
●助成上限額・助成率／1団体当たり5万円を上限、4分の3に相当する額（千円未満切り捨て）を助成
●申請期限／2月8日（月）まで
●申し込み／相談申し込みから助成金の支払いまでを県内の中間支援組織2団体（NPO法人杜の伝言板ゆるる、NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター）が実施します。
共同参画社会推進課 ☎022(211)2576

宮城県森林インストラクター養成講座受講生募集

●資格／満20歳以上県内在住の方で、講座終了後、森林ボランティアなどに積極的に参加できる方
●選考方法／小論文、面接
●定員／40人程度
●費用／無料（予定）。その他必要に応じ図鑑等購入費などの負担金
●受講期間／令和3年5月～令和4年1月までの主に土日祝日の18日間
●申し込み／令和3年2月12日（金）までに（消印有効）、①申込書②履歴書③小論文「応募動機と抱負」800字程度④返信用封筒（84円切手貼付）を記入し郵送により下記へ
●申込書／ホームページからダウンロードまたは「養成講座資料請求」と書いた封筒に、返信用封筒（84円切手貼付）を入れ下記へ
詳しくはホームページをご覧ください。
〒980-8570（住所記載不要）
自然保護課 ☎022(211)2676

宮城障害者職業能力開発校 令和3年度短期課程訓練生募集

●科名／総合実務科
●内容／導入訓練のコース体験と基礎訓練を行った後、専門コースで訓練を行います。基本的生活習慣や体力増強の他、職場規律と幅広い実務作業ができる知識と技能の習得を目指します。
●対象・定員／療育手帳所持者・30人
●訓練期間／令和3年4月8日（木）～令和4年3月10日（木）
●選考日／令和3年1月29日（金）
●申込期間／令和3年1月8日（金）までに所轄のハローワークへ
宮城障害者職業能力開発校
☎022(233)3124 FAX022(233)3125

北朝鮮人権侵害問題啓発週間

12月10日（木）～16日（水）は「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」です。

この機会に、国民的な課題である拉致問題をはじめ、北朝鮮当局による人権侵害問題に対する認識を深めましょう。
国際企画課 ☎022(211)2972

働く障害者ふれあいフェスティバル

●内容／県内の障害者就労支援事業所などで働いている障害のある方々が作った製品を、障害のある方自らが販売するイベントです。クッキーやケーキなどのお菓子、原材料からこだわったパン、新鮮な野菜や趣向をこらした手工芸品などの製品を多数取りそろえています。お買い合わせの上、ぜひお越しください。
●日時／12月8日（火）～10日（木）午前10時30分～午後2時
●場所／県庁1階ロビー
障害福祉課 ☎022(211)2541

女性医師による女性の健康相談

思春期や更年期に伴う身体的・精神的不調、家庭や職場でのストレスなど健康について悩んでいる女性の相談に応じます（完全予約制・相談無料）。
●相談日時／12月12日（土）午後2時～4時
●会場／大河原町駅前コミュニティセンター（オーガ）
●予約先／090(5840)1993（月曜日～金曜日（祝日を除く）午前9時～午後5時
※予約は上記携帯電話でのみ受け付けます。
健康推進課 ☎022(211)2624

夜間や休日のおとな救急電話相談は「#7119」へ

夜間や休日の急な病気やけがで、すぐに病院へ行った方がよいのか迷うときや、応急処置方法が知りたいときの相談ダイヤルを開設しています。

相談員がアドバイスを行うほか、受診の必要性や医療機関を案内します。
●対象者／おおむね15歳以上の宮城県在住の方
●相談／☎#7119
プッシュ回線以外・PHS　☎022(706)7119
●受付時間／①月曜日～金曜日・午後7時～翌午前8時、②土曜日・午後2時～翌午前8時、③日曜日・祝日・午前8時～翌午前8時（24時間）
医療政策課 ☎022(211)2622

灯油の取り扱いに注意しましょう

灯油を家庭のホームタンクからポリタンクに移すときなどに、目を離したり、バルブを閉め忘れたりしたために、灯油が河川に流出する事故が起きています。

流出した灯油は、河川の水環境を汚染するほか、火災の原因となり、貴重な生命や財産が失われる危険もあります。灯油の回収や処理にかかる費用は、流出させた方の負担になりますので、取り扱いには十分な注意をお願いします。

もしも灯油類が流出したら、速やかに県の各土木事務所、市町村または最寄りの消防署に連絡してください。
河川課 ☎022(211)3172

企画展「空襲・占領・復興 ―太平洋戦争と戦災復興の記録」

今年は、太平洋戦争の終戦から75年を迎えました。戦時中、宮城県内は空襲による被害を受けましたが、終戦直後から市街地の復興に取りかかりました。またこの間、日本は連合国軍の間接統治を受け、宮城県にも部隊が駐留しました。企画展では、空襲、占領、復興の3つに焦点をあてて、当館が所蔵する公文書を紹介します。
●日時／～2月21日（日）午前9時～午後5時
●場所／宮城県図書館2階展示室
宮城県公文書館 ☎022(341)3231

小・中学生保護者への就学援助制度

経済的理由により就学が困難な小・中学生の保護者の方は、学校教育法の規定に基づき就学援助（学用品費・給食費など）を受けることができます。

また、被災（東日本大震災・東日本台風）により、就学困難となった児童生徒の保護者を対象とした就学支援制度も実施されています。

※申請方法など詳しくは、お住まいの市町村教育委員会にお問い合わせください。
各市町村教育委員会
義務教育課 ☎022(211)3642

企画／宮城県広報課

河北 Books
読んで、学んで、備えよう！　あなたのまちの取り組みは？
発行 河北新報出版センター　〒980-0022 仙台市青葉区五橋1-2-28 TEL022-214-3811 FAX022-227-7666 https://kahoku-ss.co.jp/

YouTuberアドバイザーに聞く
災害からも感染症からも命を守る
ウィズコロナ時代の防災・減災の心得

35市町村の防災・減災施策
震災の記憶学び、災害への対応力育てる
防災・減災学習施設

2021 みやぎ防災ガイド　定価700円+税　好評販売中！
お求めは、書店、河北新報販売店、または河北新報出版センターまで。
河北新報配達地域にお住まいの方が、河北新報販売店または出版センターに弊社の本をお申し込みの場合、ご自宅や職場に配達致します。配送料無料（ただし、一部に配達できない地域もあります）。